

生成 AI を活用した家庭科の授業づくり

～家庭科における資質・能力の育成を目指して～

# 指導主事が考える「生成AIを活用した授業づくりのポイントと留意点」



# もっと教えて 生成A I

令和7年10月(第2版)  
徳島県教育委員会

「チャットGPT」などの生成A Iについて、知っているかな？  
文部科学省が出した、使い方についてのガイドライン（めやす）を  
説明するのでルールを守って正しく使ってね！



## Q1 生成A Iって、何ですか？

生成A Iは、パソコンで質問を入力すると、事前に学習したデータをもとに

「もっとも可能性が高い言葉」を選んで回答します。間違えることもよくあります。



## Q2 どのようなことに使うことができますか？



すでに答えのある問題であれば、インターネット検索でもできますね。生成A Iは、

まだ答えのない問題について、解決方法を考えていくときの相談相手になってくれます。

## Q3 生成A Iは、小学生でも使えますか？

いま使われている多くの生成A Iには、13歳以上などのルールがあります。

でも、小学生でも使えるものもあります。

そのときは、先生やお家の人と一緒に使うことが大切です。

使う時は、大人と  
一緒に使おうね！



利用規約（ルール）は変わることがある  
ので、最新の情報を確認してください。

## Q4 どうして大人と同じように使うことができないのですか？

生成A Iを使うには、仕組みやルールをしっかりと勉強する必要があります。

小学生は、生成A Iのできることやできないことを知り、将来使うための力をつけることが大切です。

## Q5 生成A Iを使うためには、どのような力が必要ですか？

生成A Iは正しく使えば危ないものではありません。将来、「新しい技術をうまく使いこす力」

は大切になってきます。小学生のみなさんは、次のことに気をつけ、力をつけていきましょう。



## Q6 もっと知りたいときはどうすればいいですか？

「知りたい」、「調べたい」という「学びに向かう力」が、

人間がA Iに勝てる場所だね！ A Iって何だろう？

図書館やインターネットを使って調べてみよう！



徳島県情報モラル教育サポートサイト

文部科学省のガイドラインを掲載しています。



## 小中学生のための Gemini パスポート

子どもたちが学びに使うプロンプト ライブラリ

対象学年: 小学校 4 年生～中学校 3 年生

2025 年 8 月

## 初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省 初等中等教育局

令和 6 年 12 月 26 日

Ver. 2.0

これらの資料の  
データは

GoogleClassroom

現在のClassから  
ダウンロード可能

# 教育現場を支えるAI活用ガイド：授業準備から評価まで

教員がAIを「パートナー」として活用し、業務効率化と生徒の学びの深化を両立する方法



## 授業準備：教材作成の効率化



### 指導案と導入 アイデアの作成

単元に合わせた興味を惹く導入案をAIが即座に提案します。



### 習熟度別の 読解・問題作成

1つの題材から英検各級レベルに合わせた教材を瞬時に書き分けます。



### 小テスト・クイズ の自動生成

解説付きの4択クイズを作成し、学習アプリへスムーズに連携できます。



## 授業と評価：学びの深化と分析



### 対話による 思考の「壁打ち」

AIが反対派や相談相手となり、生徒の論理的思考やアイデアを深めます。



### 個別学習を支 える「副担任」

生徒が自分のペースで質問でき、教員の手が回らない部分を補完します。



### 評価基準の作成と 傾向分析

ルーブリック作成や振り返りシートの要約により、次の一手を可視化します。

# 人間中心の生成 A I の活用

A I の提案を受けて、より考えることが求められる

「本当にそうなのかな」

「自分の生活は、どうなんだろう」

【さらに考える】

生成 A I をうまく使いながら、学びにつなげる

人間が「考える力」を大切に

登頂＝資質・能力の育成

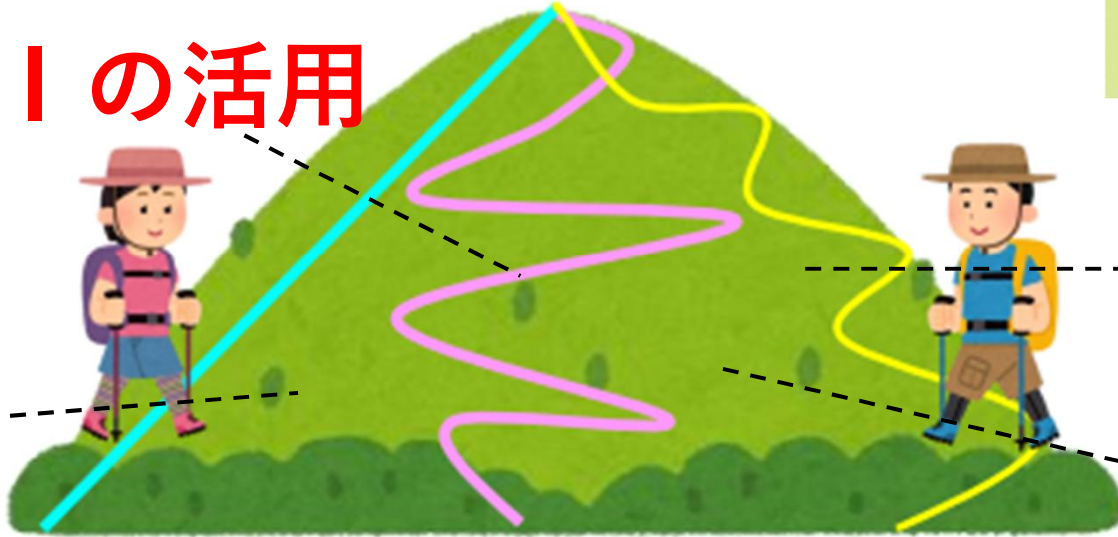
=



の目標や内容の実現

## 生成 A I の活用

問題解決的  
な学習



## 個別最適な学び 協働的な学び

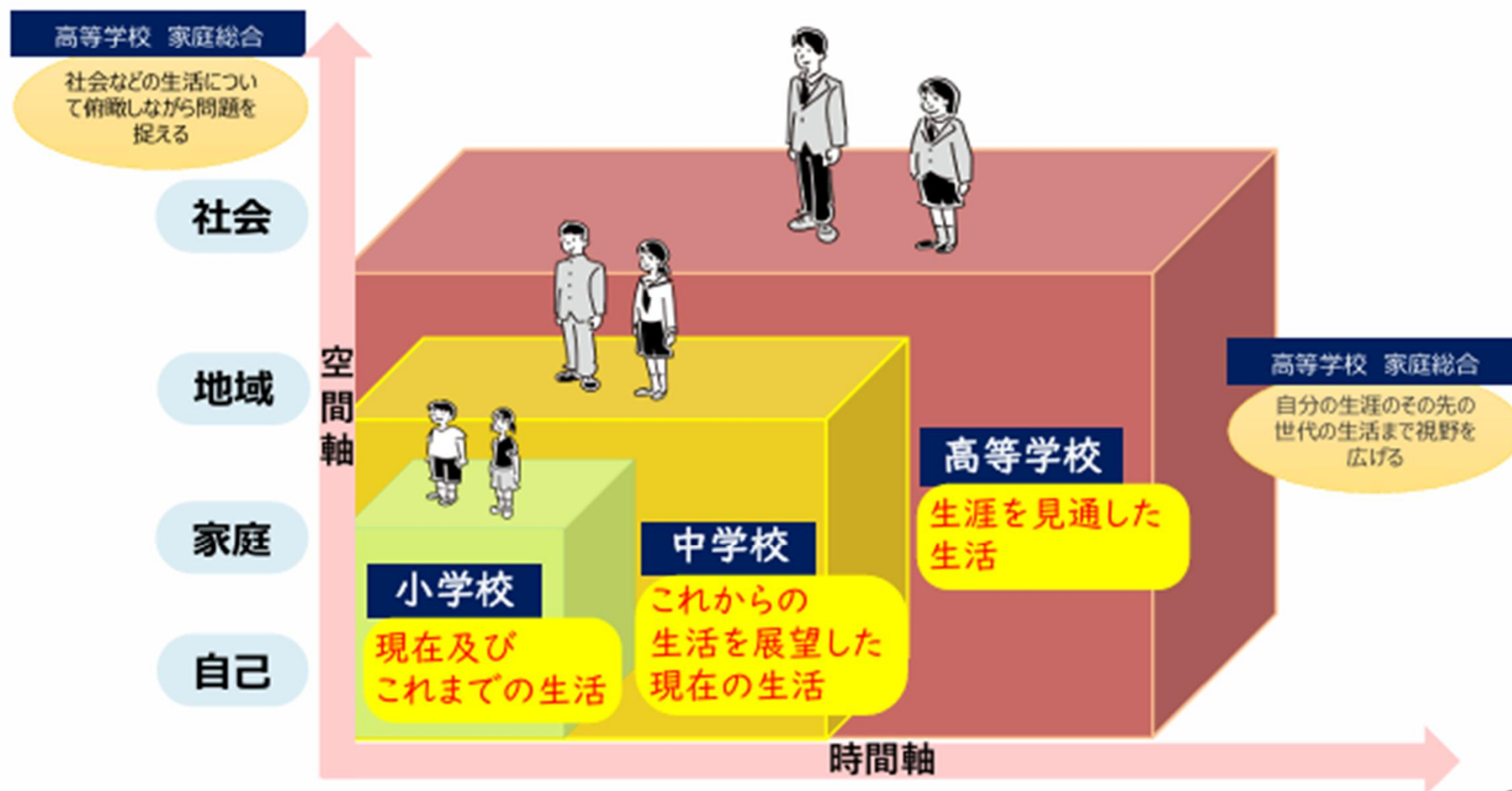
調理・製作など  
実践的・体験的な学習  
を通して

目指す山＝学習指導要領の目標や内容

- 児童生徒の実態に応じて登山ルートを決める
- 登山ルートは「題材や内容ごと」に考える
- 登山ルートを考えることは「授業改善」につながる

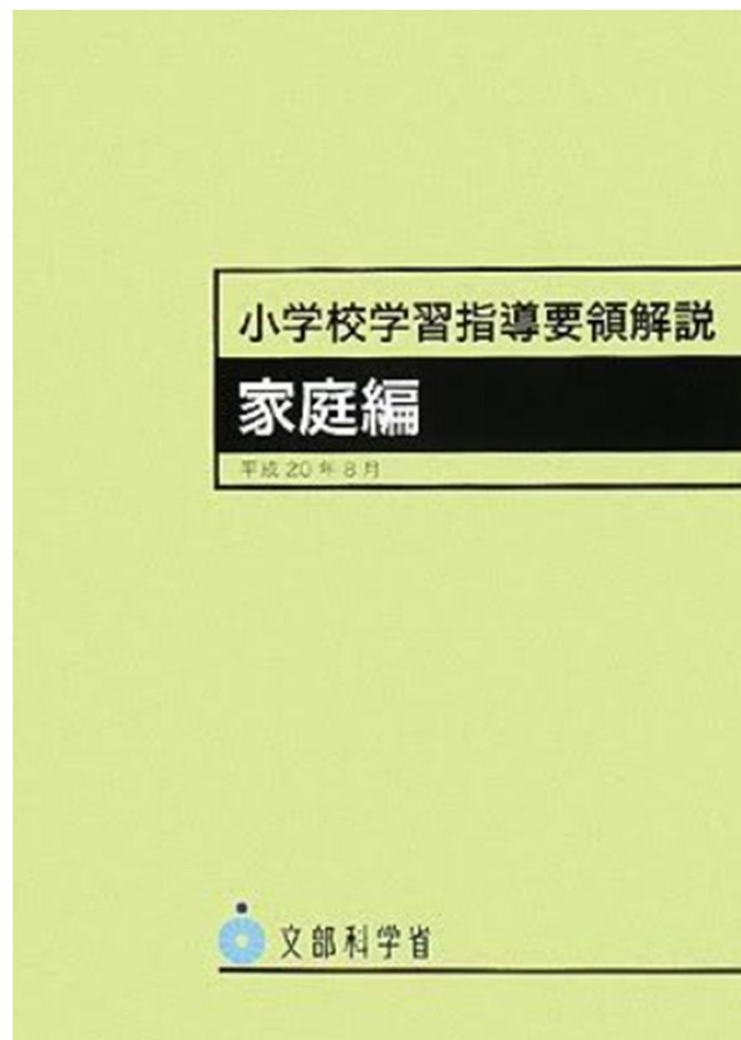
## 各学校段階における家庭科の学習と空間軸・時間軸の関係

- 小・中・高等学校における目標や内容等について、改めて系統的・体系的に整理する際、児童生徒の発達段階に応じ、学習対象を空間的・時間的に拡大させていく観点等にも配慮する。



# 学習指導要領解説 四角囲みをプロンプトへ

P.43



## (3) 栄養を考えた食事

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解すること。

(イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解すること。

(ウ) 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解すること。

イ 1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫すること。

P.44

## (内容の取扱い)

ウ (3)のアの(ア)については、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。(イ)については、献立を構成する要素として主食、主菜、副菜について扱うこと。

# なぜ家庭科の献立作りに「生成AI」なのか？

## 【従来】教師一人での見取りの限界



- ・クラス全員分の栄養計算・量を同時に確認するのは困難
- ・フィードバックが事後の「赤ペン（未書き）」になりがち

## 【AI活用】個別最適な学習空間の創出



- ・全員に「個別専属の栄養アドバイザー」がつく
- ・即時的フィードバックにより、その場で思考を深める
- ・答えではなく「問い」を返し、自己調整力を育成

# 【授業例】 本時の目標と生成AIの活用位置

題材名：「まかせてね、今日の食事」（小学校6年）

本時の目標：1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫できる。



まずは自分で  
「1食分の献立」を作成

【主体的な思考】

※最初からAIに作らせない！



AIによるセルフ点検

【対話的な深い学び】



献立のブラッシュアップ  
・振り返り

【自己変容】

# 【授業例】子供たちが入力する「点検プロンプト」の工夫

## 【役割】：

あなたは有能な「栄養士の先生」です。

## 【指示】：

作成した献立について、五大栄養素、3つの食品グループのバランスはよいか、量は適切か、主食・主菜・副菜・汁物がそろっているか小学生が分かる言葉でアドバイスをください。

## 【厳守事項/制限】：

- ※ただし、答えを教えないでください。
- ※ヒントをください。

ワークシート

改善したこと、その理由を書こう

児童が、ワークシートに自分の言葉で記述できるようにする

## 【授業例】 AIの回答と子供たちの思考の変容

「ご飯、目玉焼き、豆腐のみそ汁、  
サラダ」



「エネルギーはバッチリですね！  
ただ、体の調子を整える『緑のグ  
ループ（ビタミン類）』が不足し  
ています。  
副菜や汁物に野菜を1つ足してみ  
ますか？」

「あ、野菜が足りないのか！  
自分がワークシートに書いた  
みそ汁に実を追加しよう。何  
の野菜にしようかな。」

